

色の有て、尊き卑きけぢめも有つるを、そのけぢめは、さだかに記せる物なければ、いづれ尊く、何れ卑かりけむ、今ことくは、わきまへがたけれど、大かたは皆國造と同じさまなる物にて、此色々を一つにすべても、國造といへりき、書紀などに、伴造國造などあるは、かの色々をすべて、一つに國造といへる也、さて、もろこしの國にも、いにしへ封建の制とかいひし代の諸侯といふ物、これによく似たり、其諸侯に五等の爵とて、公侯伯子男と、五きざみの玄な有し、それはた國造君別などの色々ありしにたり、其玄なの中の一つの名をとりて、すべて諸侯といひしも、又すべてをも國造といひしに似たり、もろこしの事は、かの國のまなびするともがらは、此諸侯の五しなの事など、たれもよく玄れるを、皇國のいにしへのさまをば、かへりてよく玄れる人なくて、國造の中に、かのくさくの玄な有しをも玄らす、又かの色々はいかなるさまの物なりしとも玄らであるはいかにぞや、

〔職官志〕上古有國作大己貴國作國造也、蓋自有生民、所在人材傑出、堪君長者、衆推戴之、以奉政令、號爲國造、因其造邦國也、始其號出於自然、所從來久矣、

〔姓序考〕國造

國造略○中師宣長○本居のいはれしことは、いまだこの本源を云つくさざりしゆゑにかなひがたし、それを云ば、臣は稱言には意美と云ひ、君に對ては夜都古といへり、夜は發語にて都古ともいへり、都古は附子の意にて、君に附る子の義なり、附を都古のみ云るは體言なり、吾友北村久備の云るは、都古は仕子なるべし、都加閉を約れば都氣となれるが轉れるかさいへり、是を稱言には、御字をそへて美夜都古といへれど、たゞなるときは夜都古と、も都古ともいへり、さるから國造を稱言には久邇乃美夜都古といふべけれど、平生なるには久邇乃都古といふべし、即國附子の謂なり、造字を當しものは、其事を爲の義にいへり、事を爲は、事を執行へるをいふ、事を作り出るの謂ならず、造字は、ものを作り出る意に云こは、漢籍の意也、國造は各國のことども